

## 令和元年度日耳鼻福岡県地方部会委員会報告

### 【令和元年度学術委員会活動報告】

委員長 梅野 博仁

令和2年3月メール審議による

- ・ 地方部会の年1回、土日で開催すると、共通講習と領域講習の2つが単位取得可能となる。土曜日の開始時間を17時か18時と遅らせると、開業医は参加しやすい。
- ・ 専門医共通講習で、新型コロナに関する講演企画を希望する。
- ・ 一般演題数を半分にして、各大学の基本手術手技（扁摘、ESS、鼓室形成、喉頭や甲状腺手術等）のビデオセッションを企画して欲しい。
- ・ 特別公演が共通講習の場合、医療安全、感染対策、医療倫理の区別を明記してもらいたい。
- ・ 特別公演の前に会員ICカード手続きが必要なため、特別講演の前は15～20分程度空けて欲しい。
- ・ 特別講演を専門医共通講習（医療安全・感染対策・医療倫理）に限定すると出席者が増える。
- ・ 主催校以外の医局員の参加者が以前と比べ少ないので、各大学医局には若手の勉強の機会として積極的に参加を促して欲しい。
- ・ 「耳」「鼻」「咽喉頭」「頭頸部」「感染」「救急」「小児」など、テーマごとの発表にした方がわかりやすい。
- ・ **Controversial** な領域に関するパネルディスカッション形式の発表を希望する。
- ・ 講演内容に関しては各大学の同門会や五孔会などから希望を募ってはどうか。
- ・ 大学からの発表が多く、関連病院やクリニックからの発表も奨励する。
- ・ 基礎研究の演題が少ないので各大学1題の基礎演題を出す、または全体で3題程度集めて基礎研究のセッションを希望する。

## 【令和元年度保険医療委員会報告】

委員長 松田 洋一

福耳会地方部会合同保険医療委員会を3回開催した。九州ブロック保険医療委員会を主催した。第14回日耳鼻保険診療委員会全国協議会、令和元年度日耳鼻保険医療委員会ワークショップおよび全国会議全国会議に出席した。日耳鼻保険医療実態調査を行った。

### 令和元年度第1回福耳会地方部会合同保険医療委員会

日時：令和元年5月30日（水）

場所：リファレンスはかた近代ビル

出席：村塚幸穂、末吉誠一、河野浩万、鳥居理子、森 貴稔、杉本卓也、麻生正美、池田佳充、荒木謙三、藤井加奈子、江浦重治、熊本芳彦、平木基裕、野上兼一郎、嬉野元喜、白土秀樹、大西克樹、三橋亮太、若崎高裕、若杉哲郎、松田洋一（順不同・敬称略）

#### ①保険診療に関するアンケート結果報告（九州ブロック保険医療委員会への提出）

- ・耳鼻咽喉科特定疾患指導管理料の年齢制限撤廃
- ・めまいに対する理学療法・リハビリの点数設定
- ・処置に対する乳幼児加算の年齢拡大
- ・嚥下障害に対する指導管理料新設
- ・耳鼻咽喉科検査に対する判断料新設
- ・耳鼻咽喉科特定疾患指導管理料の対象疾患拡大と点数引き上げ
- ・アレルギー免疫療法に対する指導管理料新設
- ・高度難聴指導管理料の期間及び回数制限撤廃
- ・耳処置の片側算定復活
- ・複雑耳垢栓塞除去点数の引き上げ
- ・他の保険医療機関で撮影したコンピューター断層撮影のフィルムについて診断に関して。

#### ②令和元年度・2年度の事業計画および職務分掌

- 福耳会保険診療調査 担当：森 貴稔
- 日耳鼻耳鼻咽喉科実態調査 担当：松田洋一
- 保険診療マニュアルの改訂 担当：藤井加奈子、杉本卓也、麻生正美、  
荒木謙三、各審査員
- 保険医療講習会 担当：鳥居理子、白土秀樹
- 保険医療に関するアンケート調査 担当：鳥居理子、白土秀樹

#### ③レセプト審査、査定、返戻などの状況

### 令和元年度第2回福耳会地方部会合同保険医療委員会

日時：令和元年9月26日（木）

場所：リファレンスはかた近代ビル

出席：村塚幸穂、末吉誠一、福與和正、平野清幸、河野浩万、鳥居理子、森 貴稔、杉本卓也、池田佳充、荒木謙三、藤井加奈子、江浦重治、熊本芳彦、平木基裕、野上兼一郎、嬉野元喜、澤津橋 基広、白土秀樹、妻鳥敬一郎、三橋亮太、村上大輔、若杉哲郎、松田洋一（順不同・敬称略）

- ① 膠原病関連抗体検査の取り扱いについて
- ② 第14回日耳鼻保険医療委員会全国協議会報告
- ③ イナビル吸入懸濁用160mgセットについて
- ④ 突発性難聴、顔面神経麻痺等のステロイド治療におけるB型肝炎ウイルス再活性化防止に関する指針
- ⑤ 保険診療に関する疑義・要望のアンケート（案）作成
- ⑥ レセプト審査、査定、返戻などの状況

## 2019年度九州ブロック保険医療委員会

担当：福岡大学医学部耳鼻咽喉科学教室

日時：2019年7月14日（日）

会場：福岡大学病院本館1階 腫瘍センター ミーティング室

出席：福岡県：村塚幸穂、野上兼一郎、坂田俊文、末吉誠一、森 貴稔、荒木謙三、藤井加奈子、江浦重治、熊本芳彦、平木基裕、野上兼一郎、嬉野元喜、白土秀樹、松田洋一（順不同・敬称略）

### 【日耳鼻提出議題 質問事項】

- アレルギー性鼻炎に対して、レーザー以外で両側の下鼻甲介を焼灼した場合、K331-2 下鼻甲介粘膜灼術（900点）×2で請求可能か。レーザーで焼灼した場合にあえてK331-2×2で算定可能か。
- 経鼻的翼突管神経切断術と内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型の術後症例に対し、empty nose 症候群の診断で鼻腔内手術を行い、内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型を算定する施設がある。算定可能か？
- K347 内視鏡下鼻中隔手術Ⅱ型を鼻出血の病名で算定してきた施設があり、詳記を求めると下鼻甲介後端からの出血とのことであったが、認めても良いか。
- 痙攣性発声障害に対するボツリヌス毒素（ボトックス）治療の際、局注手技に対する算定項目について。
- 突発性難聴や顔面神経麻痺等でステロイド治療の際、薬剤投与前の肝炎劇症化などの予防のため、対象全例ルーチンの肝機能および肝炎検査は、どこまで可能か。
- 嚢胞性リンパ管腫へのピシバニール投与は、保険適応外使用が認められているようですが、他の疾患ではどうか。
- 明らかに良性と思われる疾患に対しての術後の病理組織診断は認められるか。
- 重症メニエール病に対する中耳加圧装置に対するC106 在宅自己導尿指導管理料 1800点を準用の算定基準に「メニエール病確実例」とありますが「確定例」でなくて良いか。

### 【日耳鼻提出議題 要望事項】

- 下鼻甲介切除術（高周波電気凝固によるもの）の点数をあげてほしい
- 声帯ボトックス注入術の点数設定
- 舌下免疫療法指導管理料の新設
- 浮遊耳石置換法の新設
- 扁桃術後出血に対する止血術の増点
- 頸部良性腫瘍手術の難易度に応じた手術分類と適切な算定額の設定
- 人工内耳術後リハビリ管理料の設定
- メニエール病等に対するめまい患者の管理料
- 脊髄誘発電位測定等追加加算を甲状腺良性腫瘍やバセドウ病の甲状腺全摘でも認めてほしい。

- 顔面神経麻痺に対する指導管理料を認めてほしい。
- 耳鼻咽喉科特定疾患指導管理料の年齢制限撤廃・対象疾患拡大と点数引き上げ（福岡県）
- 処置に対する乳幼児加算の年齢拡大
- 嚥下障害に対する指導管理料新設
- 耳鼻咽喉科検査に対する判断料新設
- 高度難聴指導管理料の期間及び回数制限撤廃
- 耳処置の片側算定復活
- 複雑耳垢栓塞除去点数の引き上げ
- 他の保険医療機関で撮影したコンピューター断層撮影のフィルムについての診断料における初診日限定の撤廃。
- めまい疾患、急性感音性難聴、顔面神経麻痺に対する外来管理加算の新設。

#### 第 14 回日耳鼻保険診療委員会全国協議会

日時：令和元年 9 月 15 日（日）

会場：東海大学学友会館

出席：福與和正、村塚幸穂、野上兼一郎、江浦重治、末吉誠一、嬉野元喜、平木基弘、森 貴稔、藤井加奈子、松田洋一（順不同・敬称略）

- ① 協議議題質疑応答
- ② 平成 30 年度耳鼻咽喉科実態調査報告と質疑応答
- ③ 要望項目の説明・その他  
2020 年改定に向けての提出要望項目  
消費税増税に伴う令和元年度診療報酬改定  
イナビル吸入懸濁用について

#### 令和元年度日耳鼻保険医療委員会ワークショップおよび全国会議全国会議

日時：令和 2 年 1 月 25 日（土）

会場：東海大学校友会館

出席：村塚幸穂、坂田俊文、福與和正、野上兼一郎、末吉誠一、嬉野元喜、森 貴稔、荒木謙三、松田洋一（順不同・敬称略）

- ① 全国会議  
演題：「診療報酬と内科系学会社会保険連合の活動」  
講師：内科学系学会社会保険連合 副理事長 横谷 進 先生
- ② 保険医療委員会活動報告 川寄良明先生
- ③ ワークショップ  
演題：「オンライン診療の現状と将来 耳鼻咽喉科における可能性」  
講師：医療法人社団法山会 理事長 日本オンライン診療研究会 副会長 山下 巖先生

令和元年度 第3回福耳会保険医療委員会地方部会保険医療委員会合同委員会

日時：令和2年2月6日（木）19:30～21:00

場所：リファレンスはかた近代ビル

出席：村塚幸穂、野上兼一郎、末吉誠一、坂田俊文、麻生正美、河野浩万、鳥居理子、森 貴稔、杉本卓也、池田佳充、荒木謙三、藤井加奈子、江浦重治、熊本芳彦、平木基裕、嬉野元喜、澤津橋 基広、白土秀樹、妻鳥敬一郎、三橋亮太、若崎高裕、若杉哲郎、松田洋一（順不同・敬称略）

- ① 日耳鼻保険医療委員会ワークショップおよび全国会議報告
- ② 福耳会診療調査(速報)
- ③ 日耳鼻 耳鼻咽喉科保険医療実態調査
- ④ 集団的個別指導の対象医療機関について
- ⑤ 令和2年度福耳会保険医療講習会の開催について
- ⑥ 令和2年度保険医療に関するアンケートの実施について
- ⑦ レセプト審査、査定、返戻などの状況

## 【令和元年度学校保健委員会活動報告】

委員長 矢武 克之

地方部会学校保委員会との合同委員会を3回開催した。出務として第63回九州ブロック学校保健学校医大会、第50回全国学校保健学校医大会、令和元年度日本耳鼻咽喉科学会学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会に出席。令和元年度第20回学校医講習会を開催。福岡県学校保健委員会が1回開催され出席。第44回福岡県医師会学校保健・学校医大会が開催された。福岡市を定点の一つとして全国定点調査を行った。

### 『委員会』

日時：令和元年（2019年）5月16日（木）午後7時30分

場所：リファレンスはかた近代ビル1F107号

参加：村塚幸穂、渡辺滋之、黒木岳人、荒木謙三、稲光まゆみ、迫真矢子、白土秀樹、白水英貴、高野潤、妻鳥敬一郎、安元義博、横光智、稲光まゆみ、矢武克之

日時：令和元年（2019年）9月4日（木）午後7時30分

場所：リファレンスはかた近代ビル1F107号

参加：村塚幸穂、渡辺滋之、黒木岳人、荒木謙三、稲光まゆみ、小宗徳孝、迫真矢子、白土秀樹 白水英貴、高野潤、安元義博、横光智、稲光まゆみ、矢武克之

日時：令和2年（2020年）2月13日（木）午後7時30分

場所：リファレンスはかた近代ビル1F

参加：荒木謙三、大西克樹、黒木岳人、小宗徳孝、迫真矢子、白土秀樹 白水英貴、高野潤、中川尚志、村塚幸穂、安元義博、矢武克之、横光智、渡辺滋之

### ・第20回学校医講習会の報告

日時：令和元年7月27日（土）17：00 会場：TKP博多駅前シティセンター

福岡市博多区博多駅前3-2-1日本生命博多駅前ビル8F中央街

参加者は69名。

#### 講習1 『難聴児への学校における対応』

演者：徳島大学医学部耳鼻咽喉科 講師 島田亜紀先生

司会 福耳会学校保健委員会 委員長 矢武克之

#### 講習2 『総合診療領域におけるインフルエンザ診療の実際』

演者：福岡大学医学部 総合診療部診療部 教授 鍋島茂樹先生

司会 福耳会学校保健委員会 委員長 矢武克之

## 『出務』

第63回九州ブロック学校保健・学校医大会

令和元年8月4日（日）

参加者：村塚幸穂、稲光まゆみ、白土秀樹、渡辺滋之、矢武克之

会場：ホテル日航大分オアシスタワー、大分県労働福祉会館

演題1：小児アレルギーのトピックス～小児アレルギーと喘息～

演者：中津市民病院副院長 是松聖悟先生

演題2：幼児期からの学童期のアレルギー性鼻炎を考える

演者：国立病院機構三重病院耳鼻科医長 増田佐和子先生

令和元年11月23日（日）第50回全国学校保健・学校医大会

参加者：黒木岳人、矢武克之

会場：大宮ソニックシティ／パレスホテル大宮

合計8演題あり

抄録はホームページからダウンロード可能

トップページ→プログラム→抄録集・発表スライドダウンロード

ID:saitama

PW:1123

第44回福岡県医師会学校保健・学校医大会

令和元年12月7日（土）

参加者：渡辺滋之、矢武克之

会場：久留米医師会館ホール

①模範校の表彰（計4校）

②特別講演

「学校保健における感染症疾患の取り扱いについて」

座長：久留米医師会理事 井上治先生

演者：医療法人つむら診療所副院長 津村直幹先生

③報告事項

心臓部門：福岡県医師会学校保健委員会委員 石川司朗先生

腎臓部門：福岡県医師会学校保健委員会委員 郭義先生

成長発育・小児生活習慣病部門：福岡県医師会学校保健委員会委員 山本幸代先生

運動器部門：福岡県医師会学校保健委員会委員 大橋輝明先生

平成元年度日本耳鼻咽喉科学会学校保健代表者会議ならびに学校保健研修会

令和2年1月25日（土）26日（日）

参加者：渡辺滋之、稲光まゆみ、矢武克之

会場：霞が関ビル東海大学校友会館

①大島委員長（日耳鼻学校保健委員長）からの委員会報告

- ・日耳鼻学校保健委員会の令和元年度活動報告
- ・日本医師会学校保健委員会の出務報告
- ・日本学校保健会の出務報告

②協議事項のテーマは「就学時健診・就学指導委員会への耳鼻咽喉科医の関与」

就学時健診の耳鼻咽喉科医の平成31年の参加率は約50%であり前回の調査とほとんど変化なかった。耳鼻咽喉科にしかわからないこともあるから。耳鼻咽喉科のアイデンティティーのためにも必要。就学時前に難聴および構音障害を早期に発見し、治療を早期に始めるべきである。特に難聴・音声言語障害に関しては、就学前にスクリーニングする意義がある。などの意見があった。

③令和元年度耳鼻咽喉科健康診断定点調査結果

④話題提供：軽度中等度難聴児に対する補聴器助成制度実態調査結果

演者：朝日新聞社東京本社 科学医療部 小坪遊氏

⑤健康教育推進強化のアンケート結果

⑥研修会

演題名：音声言語健診後の評価と治療

演者：鈴木恵子先生 北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科准教授

『全国定点調査』

福岡市を定点の一つとして、福岡市内の小学校17校、中学校7校に協力してもらい、小学生10,556名、中学校4,101名のデータが得られた。今回が4年目で、参加する学校は毎回少しずつ異なるが、全体として第1回、第2回、第3回とほぼ同じ規模のデータとなった。

## 【令和元年度福岡県地方部会福祉医療委員会報告】

委員長 稲光 まゆみ

### I.活動報告

1. 令和元年度は福耳会・地方部会合同福祉医療委員会を3回開催した。  
第1回 令和元年7月3日  
第2回 令和元年10月30日  
第3回 令和2年2月26日
2. 第6回嚙下障害講習会を福耳会・地方部会の共催で開催した  
令和元年8月25日 福岡大学メディカルホール
3. 第25回補聴器キーパーソン全国会議：令和元年6月1日～2日 松江市 松江テルサ  
出席者：麻生正美
4. 令和元年度日耳鼻福祉医療・成人老年委員全国会議：令和2年1月25日 東京 東海大学校友会館  
出席者：麻生正美、稲光まゆみ
5. 令和元年度日耳鼻福祉医療・乳幼児担当者会議：令和2年1月25日 東京 東海大学校友会館  
出席者：原 崇

### II.議事録

#### 令和元年度第1回福耳会・福岡県地方部会合同福祉医療委員会

日 時：令和元年7月3日(水) 19:30～

場 所：鳥居薬品株式会社 福岡支店「会議室」

出席者：麻生正美、安達一雄、稲光まゆみ、上田祥久、菊池良和、坂田俊文、佐藤祐司、柴田美雅、  
白土秀樹、末吉誠一、富田和英、中川尚志、原 崇、平木基裕、藤田真知子、藤村武之、  
前田明輝、村塚幸穂、安松千絵 (五十音順・敬称略)

#### 【報告事項】

1. 「言語聴覚フェスタ2019」への協賛について：稲光委員長
2. 第25回補聴器キーパーソン全国会議：麻生委員 (別記)
3. 難聴対策について：中川教授  
4月10日に、難聴対策議員連盟が発足。会長：石原伸晃 事務局長：自見はなこ  
6月4日に、議連より「新生児期・小児科期に関する難聴対策提言～全ての難聴児に最適な医療・保健・療育・教育を届けるために～」の提言。日耳鼻の意見が十分に反映された形となった。

#### 【協議事項】

1. 第6回嚙下障害講習会について：前田委員  
8月25日 福大メディカルホールで開催準備中。現在の進捗状況について説明あり。

#### 【その他】

1. メーリングリストに関して  
委員会として、12月2日で終了する freeml の代替のメーリングリストを検討する。
2. 聴覚障害2級認定時のABRもしくはASSR検査実施医療機関のリスト  
4年前に作成したままになっており更新する。

令和元年度第2回福耳会・福岡県地方部会合同福祉医療委員会

日 時：令和元年10月30日(水) 19:30～

場 所：久光製薬株式会社 福岡支店 2階「本会議室」

出席者：麻生正美、安達一雄、稲光まゆみ、菊池良和、坂田俊文、柴田美雅、  
白土`秀樹、末吉誠一、富田和英、中川尚志、濱之上隆史、原 崇、  
平木基裕、藤田真知子、藤村武之、前田明輝、村塚幸穂、安松千絵 (五十音順・敬称略)

**【報告事項】**

1. ABR 実施医療機関リストの改定について：稲光委員長  
前回作成して4年が経過しており、2019年版を作成した。
2. 第6回嚙下障害講習会の報告：前田委員  
令和元年8月25日(日) 福大メディカルホールで開催。  
参加人数138人。内訳は、耳鼻科医81人(福岡県50人)、言語聴覚士54人、看護師2人、整形外科  
医師1人。講師に言語聴覚士を選定したため、言語聴覚士の参加が多かった。  
収入508,000円、支出330,860円 収支177,140円。
3. 難聴対策推進議員連盟関係：中川教授  
厚労省の令和2年度予算の概算要求として、6.5億円が新スクおよび難聴児支援の推進として当てられ  
る予定。成人難聴対策への予算の要求は、令和3年度の予定。  
福岡県では、県医師会のメディカルセンター内に対応機関を設置し相談対応ができる体制を作ること  
を検討中。

**【協議事項】**

1. 第7回嚙下講習会開催について：前田委員  
日時：令和2年8月23日(日) 午前10時～ 会場：福岡大学メディカルホール  
・ 福岡摂食嚙下カンファランスとの共催とする。  
・ 前半は、県内4大学からそれぞれ演者を選出してシンポジウムを実施する。  
・ 後半に外部講師による講演1時間を実施し、領域講習とする。
2. 福岡摂食嚙下カンファランス  
来年4月4日に実施する。福耳会・地方部会との共催とし、外部講師招聘に対して資金面で援助する。  
4月のカンファランスの外部講師は1名を県外から招聘し、8月の嚙下障害講習会では近隣の講師を招聘。

令和元年度第3回福耳会・福岡県地方部会合同福祉医療委員会

日 時：令和2年2月26日(水) 19:30～

場 所：Meiji Seika ファルマ株式会社 福岡支店「会議室」

出席者：麻生正美、安達一雄、稲光まゆみ、上田祥久、菊池良和、坂田俊文、佐藤祐司、白土`秀樹、  
末吉誠一、富田和英、中川尚志、原 崇、平木基裕、前田明輝、村塚幸穂、安松千絵  
(五十音順)

**【報告事項】**

1. 福岡県障がい者更生相談所における耳かけ型補聴器の取り扱いについて：末吉委員  
これまでは「ポケット型」が標準であったが、今後は「耳掛け型」が支給の標準となる。意見書には「耳  
掛け型」の必要性を記入すること。
2. 令和元年度福祉医療・乳幼児担当者会議報告：原委員(別記)

3. 令和元年度福祉医療・成人老年委員全国会議報告：麻生委員・稲光委員（別記）

4. 難聴対策議連関係：中川教授

「Japan Hearing Vision」：R1年12月27日に発表

難聴対策議連において、ライフサイクルに応じた難聴者（児）支援を実現するために、政府に対する要望を取りまとめたもの。

(1)出生前、新生児期及び小児期における難聴対策 (2)成人期、老年期における難聴対策 (3)ライフサイクルに応じた難聴対策を支える基盤づくり

**【協議事項】**

1. 第7回嚙下講習会開催について：前田委員

R2年8月23日（日） 10:00～13:00 福大メディカルホールで開催予定。

2. 摂食嚙下カンファレンス：安達委員

2020年 4月 4日（土）福岡山王ホールで開催予定

**【その他】**

1. 令和2年度新生児聴覚検査体制整備に係る福岡県の取り組み：中川教授

(1)福岡県新生児聴覚検査体制整備検討会議：第1回を、R2年2月25日に県庁で開催。

(2)新生児聴覚検査研修会の開催 (3)乳幼児聴覚支援センター（仮称）の設置

2. 新スク後・乳幼児健診後の二次聴力検査機関および精密聴力検査機関の申請について：中川教授

日耳鼻より再度確認要請あり。福岡県の精密検査機関は、北九州市立総合療育センター、福岡市立こども病院、九大、福大、久留米大。

3. 補聴器適合に関する診療情報提供書に関しての質問

- ・ 医証として料金をもらうことは可能か→不可。
- ・ 確定申告で医療費控除に使えるのか→本来可能だが、各地の税務署に理解されていない場合がある。

## 【令和元年度 補聴器キーパーソン活動報告】

麻生 正美

### 令和元年度補聴器キーパーソン活動報告

補聴器キーパーソン全国会議 6月1日(土) 13:30~18:00

- 1) 補聴器適合に関する診療情報提供書(2018)のアンケート調査結果(全国で358名)  
各都道府県地方部会の福祉医療委員および補聴器キーパーソンが対象  
診療情報提供書(2018)は61%が使用、6%が古い様式、31%が使用なし  
所得税控除について、患者から相談がなくても説明しているか: している39%、していない61%  
医療費控除について気づいた点
  - ・ 税務署や税理士が制度を理解していない
  - ・ 控除を受けられたかどうかの把握が困難
  - ・ 医療費控除の適応は税務署の判断なので、安易に勧められない
- 2) 「補聴器販売に関する禁忌8項目」についてのアンケート調査結果  
昨年改訂された。禁忌8項目のいずれかに該当する場合は、必ず耳鼻咽喉科(補聴器相談医)を受診してほしい。初めて補聴器を購入される場合は、事前に補聴器相談医の補聴器適応のための診察を受けるよう勧める。耳鳴りや認知症に関する記載はその他の確認事項として記載されている。
- 3) 補聴器相談医の新規委嘱・更新のための講習会の現状報告  
委嘱のための講習会を行っている: 13都道府県  
更新のための講習会を行っていない県 茨城、神奈川、宮崎  
行う場合の頻度: 毎年が20都道府県 2年に一度が7県 6年に一度が3県 その他の県は不定期  
現在の補聴器相談医数は約4300名

補聴器キーパーソン モーニングクローズド・ミーティング 6月2日(日) 7:30~9:00

- 1) 各地方部会補聴器キーパーソンからの問題提起について(佐野 肇先生)
  - ①診療情報提供書について  
医師の診断書があれば、税務署は補聴器の医療費控除を認めてくれるのではないかと(質問者の理解は、診療情報提供書も認められたと思っているが) → 認められない。ただし原則なので税務署レベルでおかしなことが起こる可能性は否定できない
  - ②人工内耳体外装置(スピーチプロセッサ)への総合支援法での助成について  
健康保険で取り扱うもので、総合支援法は利用できない。  
大分市、別府市は100万円まで補助がある。長崎県では1/3本人、1/3県、1/3市町村  
日耳鼻からも働きかけをしてほしい 定価では100万(実質60万)
  - ③軟骨伝導補聴器の公的助成はどうなっているか?  
医療機器としてJISで認定されていない 補装具のなかにはいない
  - ④障害者総合支援法に基づく補聴器支給におけるデジタル補聴器調整料(2000円)  
昨年4月から加算可能 認定補聴器技能者・言語療法士が調整した場合に算定。

⑤その他

販売店協会に加盟していない店舗で売られた場合に問題が多いので、補聴器工業会に参与してほしい

郡部等では認定補聴器専門店がない

補聴効果の適否をもっと簡単に判断できる指標が必要ではないか

補聴器の処方箋化はどうなっているか (担当理事の先生の返事は「ごもつとも」ばかり)

2) 国民生活センターからの補聴器に関する苦情等の情報について (佐野 肇先生)

2017年度 595件 (2016年度 620件) うち苦情 431件、相談 164件

3) 補聴器キーパーソンからの提言

- ・年に一回この様な事例を挙げるだけではなくて、日耳鼻のホームページに、問題症例報告書をつくり、プリントアウトして、問題事例が出た際に、メールやFAXで日耳鼻に報告する。その結果をデータとして、難聴対策推進議員連盟に渡し、対策を講じてもらう → 日耳鼻で検討する
- ・毎年毎年同じ議題で、わざわざ全国から集まって話すような内容ではない。われわれが提案しても検討されない。
- ・認定補聴器店側にも耳鼻科医に対して不満もあると思うので、一方通行ではなく双方の意見の集約が必要ではないか

なお、今回の補聴器キーパーソン全国会議の討議を受け、補聴器キーパーソンの麻生先生から、「補聴器適合に関する情報提供書(2018)に関するトラブル調査(仮称)」を福岡ブロックで実施することが提案された。

3. 難聴対策について：中川教授

4月10日に、難聴対策議員連盟が発足。会長：石原伸晃 事務局長：自見はなこ

6月4日に、議連より「新生児期・小児科期に関する難聴対策提言～全ての難聴児に最適な医療・保健・療育・教育を届けるために～」の提言。

日耳鼻・耳科学会・聴覚医学会・全国耳鼻咽喉科医会を中心に意見書を提出し、議連事務局とも連携をとり、日耳鼻の意見が十分に反映された形となった。

6月7日に「難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携プロジェクト報告」

厚労書と文科省が連携したプロジェクトを計4回開催し提言書を作成

6月21日に、「経済財政運営と改革の基本方針2019について」の閣議決定。

来年度予算編成で、難聴児に対する支援が前進することになった。

今後は、成人・高齢者の難聴対策が議論される予定。

令和元年度福祉医療・成人老年委員全国会議報告

令和2年1月25日 於：東海大学校友会館

<報告事項>

1. 令和元年度事業報告

補聴器相談医の更新・委嘱や講習会開催の支援、HP上での相談医名簿の更新

補聴器適合に関する診療情報提供書(2018)と禁忌8項目に係る全国調査

補聴器相談医制度の規則改定に向けての協議 など

## 2. 令和2年度事業計画

超高齢社会を迎え、聴覚障害、めまいや嚙下障害などに対して幅広い対策を講じる。

「補聴器販売に関する日耳鼻の基本方針」の実現に向け、学会の活動の検討と補聴器キーパーソン活動の円滑な運営を図る など。予算要求額 6,960,000 円

### <講演>

「難聴対策議員連盟の活動と今後の日本における難聴対策」 衆議院議員 富岡 勉先生  
難聴対策議員連盟が、2019年4月に設立され、新生児難聴・後天性難聴・老人性難聴、医療機器の開発促進に取り組む。昨年12月6日の第12回総会において、Japan Hearing Visionの最終的な取りまとめを会長一任とした。新生児難聴対策の予算は、令和1年度は49百万円であったが、令和2年度436百万円を獲得できた。

### <協議事項>

#### (1) 補聴器相談医制度の規則改定について

改定が必要な理由

- ① 専門医講習会（秋季）では現在は委嘱のための講習会のみだが、R3年度からは更新のための講習会も実施することを検討中。（日耳鼻理事会では未承認：中川教授）
- ② 日耳鼻 IC カードを利用した専門医制度との連動を図る。
- ③ 前回改定からかなりの年数が経過している。

改定の主な内容

- ① 専門医制度と連動する形で、専門医更新と補聴器相談医の更新時期を同じにする。  
現行は「6年で3単位」であるが、「5年で2単位」に変更する。
- ② 更新前の3年以内に少なくとも1単位を受講するという条件はなくす。
- ③ 委嘱のための講習会のカリキュラムでは8項目を受ける必要があるが、更新のための講習会のカリキュラムは現在5項目。専門医講習会で一緒に実施することができないため、更新のための講習会も8項目とする。
- ④ 1講義40分→45分に。2時間（3講義）で1単位→1.5時間（3講義）で1単位に
- ⑤ 今年の秋までに、いろんな意見を聞き、理事会で承認されれば、令和3年より開始予定。

#### (2) 補聴器購入費に係る医療医控除と診療情報提供書に係る問題点について

東京都補聴器キーパーソンの山川卓也先生から、補聴器適合に関する診療情報提供書（2018）の使用状況と補聴器販売に関する禁忌8項目について、東京都補聴器相談医へのアンケート結果が報告された。

## 【令和元年度福祉医療・乳幼児担当者全国会議報告】

原 崇

日時：令和2年1月26日

場所：東海大学校友会館

出席者：原 崇

### 1. 令和2年度事業計画

- ・乳幼児聴覚健診について全国の実態把握に努め、問題点を調査し、精密聴力検査に関わる円滑なシステム作りを考え、新生児聴覚スクリーニング後の二次聴力検査機関における簡便な検査マニュアル（リーフレット）を作成する。
- ・1歳6カ月児健康検査及び3歳児健康診査リーフレット（第2版）、耳鼻咽喉科医のための3歳児健康診断診査の手引き（第3版）、新生児聴覚スクリーニングマニュアルの普及に努める。
- ・引き続き人工内耳報告書のデータ化をすすめる。
- ・日本耳鼻咽喉科学会各地方部会の福祉医療・乳幼児担当者全国会議を開催する。
- ・耳鼻咽喉科領域の乳幼児の福祉医療向上のための活動を行う。
- ・予防接種などについて、関係学会や行政と連携し、医療の向上を図る。
- ・地方部会、関係学会、全日本ろうあ連盟、その他の関係団体と連携し、必要な事項を協議し、地域の福祉保健活動を支援する。
- ・子供の耳鼻咽喉科疾患に関する広報活動に努める。

### 2. 30年度3歳児聴覚健診および1歳6カ月児聴覚アンケート調査報告

全国90.8%の自治体で問診票+ささやき声による自己検査（厚生省方式）が採用されている。福岡県はまだ普及率が低く、昨年と同程度の53.8%であった。引き続き厚生省方式の採用を自治体に働きかけていく。1歳6カ月健診時における日耳鼻リーフレット導入自治体は昨年からはほぼ横ばいであった。

### 3. 新生児スクリーニング後の精密聴力検査機関調査報告

- ・2018年に初診した0歳児（新スクを受けていない児を含む）

精密聴力検査機関実態調査では、4976人が精密聴力検査機関を、1878人が二次聴力検査機関を初診している。月齢1～3か月での受診が45%で最多で、6か月未満の受診が90%であった。両側referからの両側難聴 1040人（57%）、片側referからの両側難聴 246人（8%）、passから両側難聴 46人（6%）、新スクを受けていない又は不明な児からの両側難聴 96人（15%）合計の1428人が両側難聴を指摘されている。そのうち605人が療養施設に紹介された一方、263人は補聴器適合には至らなかった。うち182人は軽度難聴で経過観察、59人は全身状態不良などの理由となっている。

- ・2018年に初診した1歳児

何らかの難聴あり：404人（26% 片側128、両側276）うち片側難聴中 新スク両側pass 18人、両側難聴中 新スク両側pass 79人、片側refer 12人。

- ・2018年に初診した2歳児

何らかの難聴あり：223人（15% 片側66、両側157）うち片側難聴中 新スク両側pass 10人、両側難聴中 新スク両側pass 59人、片側refer 3人。

#### 4. 精密聴力検査機関リストの改定について

「新生児スクリーニング後の聴力検査機関リスト」の改定に向け、地方部会長に新生児スクリーニング後・乳幼児健診後の二次聴力検査機関及び精密聴力検査機関の推薦を依頼した。推薦された機関を対象に新生児スクリーニング後の聴力検査機関実態調査を行った。同時に1歳児および2歳児に関する聴力検査機関実態調査を行った。精密聴力検査機関、二次聴力検査機関候補あわせて241機関を対象としており、振り分けを検討してリストを作成する予定である。

#### 5. 領域講習

「医療連携による先天性CMV感染症の包括的診療」

東京大学医学部小児科 岡 明 先生

母子感染症において先天性CMV感染（cCMV）は疫学的にも高頻度（年間約3000人・新生児の0.31%）で、IUGR、早産、小頭症、脳内石灰化、脈絡網膜炎、肝脾腫など重症度も高く、先天性難聴、遅発性難聴の原因としても重要である。感染すると長期にウイルスを排出し、感染源になりやすい。低体重などハイリスク児が感染しやすく、長期間ウイルスの排出源となるため、上の子から母親へ感染して母子感染を起こすケースが多く、またハイリスク児が多く入院している施設での発生率が高い。

先天性CMV感染症に対する包括的医療保険体制の構築が必要である。

- ① 母子感染についての啓蒙・予防法の周知
- ② 妊婦健診で抗体検査でのリスク評価
- ③ ハイリスク新生児については尿を用いた診断
- ④ 感染児には適切な評価とフォローアップ

今後の研究課題として抗ウイルス治療、新生児スクリーニング、臍帯での検査法など

## 【令和元年度産業・環境保健委員会活動報告】

委員長 鈴木秀明

### I. 活動報告

#### 1) 選別聴力検査実務研修会

2019年8月28日(東京)、2019年12月18日(大阪)、2020年2月17日(東京)の3回開催された。受講者数はそれぞれ85名、93名、109名であった。

#### 2) 純音聴力検査研修会

2020年2月10～11日に東京で開催された。参加人数は46名であった。

#### 3) 日耳鼻認定騒音性難聴担当医の名簿を更新し、最新版を日耳鼻ホームページで公開している。

#### 4) 2018・2019年度第3回産業・環境保健委員会が2019年5月9日(木)に大阪で行われ、福與担当理事と鈴木が出席した。

#### 5) 2018・2019年度第4回産業・環境保健委員会が2019年9月5日(木)に東京で行われ、福與担当理事と鈴木が出席した。

#### 6) 2018・2019年度第5回産業・環境保健委員会が2020年1月25日(土)に東京で行われ、福與担当理事と鈴木が出席した。

#### 7) 前年度に発刊された「騒音性難聴に関わるすべての人のためのQ&A 第2版」(日耳鼻産業・環境保健委員会編)が日耳鼻ホームページ上で公開された。

#### 8) 「騒音障害防止のためのガイドライン」改訂に係る要望書を厚生労働省に提出した。

#### 9) 2019年5月に大阪で開催された第120回日本耳鼻咽喉科学会において「茨城における製造業事業所の騒音レベルならびに作業従事者の聴力の実地調査」(和田哲郎、鈴木秀明、福與和正、他)の口演を行った。

#### 10) 2019年11月に大阪で開催された第64回日本聴覚医学会において「騒音事業所における防音保護具使用状況」(和田哲郎、鈴木秀明、福與和正、他)の口演を行った。

#### 11) 2019年度労災疾病臨床研究(騒音性難聴による生活の質と労働生産性の低下を防ぐ予防から発症後まで俯瞰したデータ収集と現場の支援;研究代表者 和田哲郎)に、鈴木が研究協力者として参加した。騒音性難聴をもたらす騒音レベルのリスク評価についての検討を担当した。

#### 12) 第24回日耳鼻産業・環境保健講習会(騒音性難聴の部)が2020年1月23～24日に東京港区の航空会館で行われた。受講者は82名であった。

#### 13) 2019年度日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議が2020年1月25日(土)に東京で開催され、全国47都道府県から53名の参加があった。福岡県からは福與担当理事、鳥居委員、鈴木の3名が出席した。内容は下記の通りである。

### II. 日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議

2019年度日耳鼻産業・環境保健委員長会議は、2020年1月25日(土)に東京都千代田区霞ヶ関 東海大学校友会館で行われた。福與担当理事の開会の辞、森山理事長の挨拶の後、以下の講演、報告があった。

#### 1) 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課主任中央労働衛生専門官 構 健一氏より、「労働衛生の現状と職場における騒音障害防止対策」の講演があった。

#### 2) 鈴鹿委員長から産業・環境保健講習会(騒音性難聴の部)実施報告があり、騒音性難聴担当医名簿更新の依頼がなされた。また騒音性難聴防止に向けた要望書を厚生労働省に提出したことが報告された。和田委員から「騒音性難聴に関わるすべての人のためのQ&A 第2版」の活用状況ならびに騒音障害防止研究会のシンポジウム報告があった。

#### 3) 埼玉県地方部会武石委員、千葉県地方部会吉田委員長、石川県地方部会上出委員長、兵庫県地方部会栗花落委員長から各県における2019年度の地方部会産業・環境保健委員会活動報告があった。

質疑応答の後、鈴鹿委員長の閉会の辞にて終了となった。

## 【令和元年度医事問題委員会活動報告】

委員長 西平 修

### ①令和元年度 福岡県地方部会・福耳会合同医事問題委員会 令和元年9月5日

#### 報告事項

- 1 第44回日耳鼻医事問題セミナーの報告
- 2 福岡県耳鼻咽喉科の医事紛争の事例。継続7例と新規4例の11例について。

#### 協議事項

1. 医療安全講習会  
令和元年11月9日に開催
2. 委員会メーリングリストについて

### ②第44回日耳鼻医事問題セミナー

日時: 令和元年6月22日(土)、23日(日)

会場: 宮崎

出席: 西平、渡辺智、熊本真優子

#### <内容>

#### 1. 宮崎県地方部会医事問題アンケート調査結果報告

部会会員67名に対してアンケート。医事紛争の経験ありが10%(5名、開業医3名、勤務医2名) インシデント・アクシデントは経験ありが52%。経験した救急医療は急性喉頭蓋炎(69%)薬剤性ショック(27%)が多い。

医事紛争発生時の連絡先が決まっていないは56%。

開業医の多くで決まった連絡先がないことが判明。

#### 2. 耳科手術の合併症とその対策

宮崎大学医学部耳鼻咽喉科教授 東野 哲也

耳科手術に伴う重大な副損傷部位として、脳硬膜、血管、内耳、顔面神経、鼓索神経など。高位頸静脈球、鼓室内に異常走行する内頸動脈、内耳、顔面神経への損傷。また、鼓索神経損傷を軽視しない。

人工中耳手術、人工内耳手術などは、従来の要求水準を越えた手術だけに、新しい技術へのチャレンジと後進への手術教育のバランスが課題である。

#### 3. 最近の医事問題とその周辺

－医療と患者それぞれの立場に寄り添って－

弁護士 江藤 利彦

#### 医事紛争への対応策

医事紛争となってしまった場合は、一番大切なことは、誠意ある真摯な態度で患者に接し、話をよく聞き、こじれる前、初期のうちに解決するのが最良の方法である。

#### 具体的検討

- ・解決を急いだり、安易に妥協したりしない。
- ・安易にミスを認めるような発言や文書を書かない。
- ・紛争が決着しないうちにお金を払わない。
- ・保険の話は出さない。
- ・保険会社に連絡する。

医事関係訴訟件数は平均800件、審理期間2年。そのうち30%が判決、50%が和解。  
診療科別には、内科25%、外科16%、歯科13%、整形外科11%、産婦人科6%。  
耳鼻咽喉科は10件程度で裁判決着は少ない。

#### 4. パネルディスカッション「事例を通じて」

- ① 鼓膜切開にて大量出血  
鼓室内に異常走行する内頸動脈があり、大量出血。  
その後、動脈瘤ができ、血管造影後に脳梗塞。
- ② 喉頭癌 (T<sub>2</sub>N<sub>1</sub> Stage III)  
頸部郭清術で頸動脈を結紮して術後脳梗塞を発生。

#### 5. 医療倫理の基礎と実践

— 倫理的推論のスキルを中心に —

宮崎大学医学部社会医学講座生命医療倫理学分野教授 坂井 孝壱郎

生命科学研究や新薬開発などにおける「研究倫理」の問題、終末医療における延命治療の差し控えや、遺伝子診断等をめぐる「臨床倫理」の重要性がますます注目されている。  
倫理的な医療従事者とは、同情と共感の違いを理解し、自分が独善に陥っていないかと一歩立ち止まって考え、自分の判断を他のスタッフと共有するチーム・プレーができること。  
同情とは、私ならという視点。悪意なくても自己中心。  
共感とは、この患者さんは何を望んでいるのかを常に意識しようとする視点。どこまでも患者中心。

#### 6. 千年カルテプロジェクトで広がる医療情報の活用

～EHR、医療安全、臨床研究、経営改善～

宮崎大学医学部病院IR部 教授 荒木 賢二

地域で医療情報(電子カルテ情報)を共有するネットワークEHR (Electronic Health Record)を全国レベルの大規模に構築し、医療情報を2次利用すること。現在108の医療施設が参加し、最終的には1000万人規模の医療情報データベース構築を目指す。

## 7.医療現場において滅菌の品質を保証するために行うべきこと

大阪大学医学部附属病院 材料部 高階 雅紀

医療現場では毎回の滅菌対象物に統一性がないため、それぞれの医療施設における最悪状態を想定し、それに対して十分な余力を持った滅菌工程であることを証明することが必要となる。実際には、高圧蒸気滅菌(AC)、エチレンオキシガス滅菌(EOG)、過酸化水素を用いた滅菌、および低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌(LIST)などが用いられる。

耳鼻科領域では以下の特徴がある。

- ①管腔機材が多い
- ②セミクリティカル(中～高水準消毒)医療機械が多い
- ③軟性内視鏡の使用頻度が多い
- ④時間当たりの診療件数が多い
- ⑤診療ユニットの構造的課題

### ③令和元年度日耳鼻医事問題ワークショップ

令和2年1月25日(土)東海大学校友会館にて

出席:西平 修、熊本 真優子、渡辺 智

#### 1. 委員会活動報告

(第44回日耳鼻医事問題セミナーを令和元年6月22日、23日宮崎で行った。)

#### 2. アンケート調査結果報告

令和元年度期間中では、発生件数49件(紛争32、紛争に至らず17件)継続79件。

紛争になった件数が多い県は、愛知5、北海道4、福岡4、神奈川3、東京、三重、鹿児島2

#### 3. 事例報告

耳領域 全体の25%。耳管通気による事故について、鼓膜穿孔、めまい、皮下気腫、頭蓋内合併症によるショック、顔面神経麻痺、死亡。

鼻領域 全体の25%。ESSによる事故、上顎洞穿刺による事故(手術承諾書の必要性)。

口腔・咽頭・唾液腺・喉頭・頸部領域 全体の33%。扁桃摘出術後の舌咽神経損傷による味覚障害、舌のしびれ、皮下気腫の発生。

## 【令和元年度広報委員会活動報告】

委員長 末田 尚之

### 議 題

- (1) 前年度の活動報告
- (2) 福岡県地方部会ホームページの利用について

### 議事内容

#### (概要)

- (1) 前年度の活動報告
  - ・ 地方部会総会議事録等の新規掲載
  - ・ 学会、研究会の日程案内、発表演題名の紹介
  - ・ 地方部会、医会役員名簿の掲載
  - ・ 県内専門医の紹介、耳鼻咽喉科医療機関（入院施設）の案内
  - ・ 福岡県地方部会ホームページ：<http://www.fukuoka-jibika.com/>
- (2) 福岡県地方部会ホームページの利用について
  - ・ ホームページを周知させ、福岡県地方部会に関わる情報伝達の一助とする。また、必要に応じて他の委員会と連携した情報を会員に提供出来る環境を保持する。

#### (総括)

従来通りに学会、研究会の日程案内、地方部会学術集会での発表演題名、地方部会、医会役員名簿の掲載等を引き続き行い、福岡県地方部会に関わる情報提供を行うツールとする。